

教科名	社会	科目名	社会a	履修学年	中学	1年	全組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	帝国書院「中学生の地理」 帝国書院「中学校社会科地図」 帝国書院「アドバンス 中学地理資料」						
担当者	今井(ABC), 島崎(DE)								
学習目標	現代社会では、国民一人ひとり国際社会の一員としてさまざまな課題に対して自ら調べ・考えていくことが求められている。ここでは、世界各国の自然の様子と人々の活動を学習し、日本と各国とを比較できるようにすることを目標とする。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。		世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し表現している。		世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査、小テスト		定期考査、ミニレポート		振り返りシート グループディスカッション プレゼンテーション 授業態度				
学期末の 各観点比率(%)	50%		30%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等				時間数	評価区分1	評価区分2	
1	4	世界の姿	大陸の分布や国家群を大まかにとらえる				4	中間考査	
	5	地球儀と世界地図のちがひ	さまざまな世界地図の図法について何が正確に表されているか理解する				5		
	6	国境と領土問題	どのような経緯で国境線が引かれているか、時事問題も交え考察する				4	期末考査	
	7	地域調査(学校周辺の地形と土地利用の変化)	学校付近の地形の特徴と都市化について学ぶ				6		
	8								
2	9	地域調査(GISに触れる)	主に「地理院地図」を用いて地形の特徴について理解を深める				4	中間考査	
	10	世界の地形	プレートテクトニクスや造山運動について、日本列島などを舞台に考察する。				5		
	11	世界の気候と農業、生活文化	熱帯と乾燥帯について、人々の生活にどのように影響しているか、考察する。				6	期末考査	
	12	世界の気候と農業、生活文化	温帯について、人々の生活にどのように影響しているか、考察する。				5		
3	1	世界の気候と農業、生活文化	亜寒帯、寒帯、高山気候について、人々の生活にどのように影響しているか、考察する。				4	学年末考査	
	2	世界の人口と人口問題	世界的な増加と、日本での減少についてどのような影響があるか、考察する。				4		
	3	世界の都市と都市問題	日本や世界で、都市特有の問題としてはどのようなものがあるか、大まかに理解する。				3		

教科名	社会	科目名	社会b	履修学年	中学・高校	1年	A~E	組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	『 中学歴史 日本と世界』(山川出版社)						
担当者	堀内 厚平		『 つながる歴史 東京都版』(浜島書店)						
学習目標	古代から中世の世界とその中の日本について、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせつつ、広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効率的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	古代：世界の諸文明の特徴を対比的にとらえ、さらに日本列島で展開された歴史における中国や朝鮮半島の影響について説明する。 中世：平氏政権、鎌倉幕府の興亡を理解し、国際的な交流と諸産業の発達から経済が発達し、新たな文化も生み出されたことを理解する。		古代：世界の諸文明がどのように周辺地域に影響を与えたかを考える。また、日本列島の文化や政治体制の特徴について、東アジアの中でとらえる。 中世：武士や農民といった具体的な視点から各時代の政治権力を考察する。個別の作品を事例として、文化に対する外交や社会の影響を考察する。			身近な地域に関心をもって、テーマを設定して調査活動に取り組む。 古代：東アジアの中で日本列島をとらえることに意識をむけ、一国史の枠組みではなく世界史とのつながりを考えながら学ぶ。 中世：武士や農民といった具体的な視点から各時代の政治権力を考察する。個別の作品を事例として、文化に対する外交や社会の影響を考察する。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査：知識問題と資料読み取り問題など 小テスト：知識問題		定期考査：資料読み取り問題や論述問題 振り返りシート			振り返りシート グループディスカッションによる意見交換および発表 プレゼンテーション 授業態度、また授業以外での活動や自発的な成果物など			
学期末の 各観点比率(%)	約60%		約30%			約10%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分 1	評価区分 2
1	4	年代の表し方 人類の出現と農耕・牧畜の始まり 古代文明の始まり、中国文明と東アジア					9	1 学期 中間 考査	
	5	旧石器時代から縄文時代へ ↓ 稲作とクニの始まり							
	6	中国の記録から見る日本列島、大王の支配と渡来人 ↓					9	1 学期 期末 考査	
	7	聖徳太子の政治と飛鳥文化							
	8						2 学期 中間 考査		
9	律令国家への道 ↓								
10	平城京と天平文化 ↓					12		2 学期 期末 考査	
11	平安京と弘仁・貞観文化 ↓								
12	摂関政治と貴族社会								
3	1	荘園の成立と武士の登場 ↓					16		学 年 末 考 査
	2	院政と平氏政権武士の成長 ↓							
	3	鎌倉幕府の成立と執権政治 武士の日常・民衆の生活							
						合計	56時間		

教科名	社会	科目名	社会a	履修学年	中学・高校	2年	全組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	帝国書院「中学生の地理」					
担当者	阿部(晃)		帝国書院「中学校社会科地図」 帝国書院「アドバンス中学地理資料」					
学習目標	現代社会では、国民一人ひとりが国際社会の一員としてさまざまな課題に対し、自ら調べ・考えていくことが求められている。本時では、日本各地の自然の様子と人々の活動を日本の各地域、場合によっては世界とを比較することで、地域の特色の理解を深め、世界の中での日本の姿を捉えられるようになることを目標とする。							
評価方法								
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	人々の生活は、居住地の自然及び社会的条件から影響を受けたり、逆にそこでの自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。		日本各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し表現、また地図から必要な情報を読み取れる。		日本各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査、地図作成		定期考査、地図作成		授業態度、地図作成と発表、タブレットによる調べ学習			
学期末の 各観点比率(%)	50%		30%		20%			
授業計画								
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等				時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	日本の地域区分 九州地方	行政区分と行政区分以外の境界線を理解させる 南西諸島の位置、日本の領域、日本の領土問題を理解させる		4 1	中間考査		
	5	九州地方	南西諸島の位置、日本の領域、日本の領土問題を理解させる		2			
		九州地方	南西諸島の地形とそこでの生活を理解させる		4			
		九州地方	南西諸島を例に日本の米軍基地問題について理解させる		1			
	6	九州地方	火山地形と自然災害、そこでの生活を理解させる		3	期末考査		
		九州地方	火山地形とその産業を理解させる		3			
	7	九州地方	干潟とそこでの産業、自然保護活動、観光について理解させる		1			
九州地方		干潟とそこでの産業、自然保護活動、観光について理解させる		1				
中国・四国地方		日本の気候を理解させる		1				
2	9	中国・四国地方	日本の気候を理解させる		1	中間考査		
		中国・四国地方	日本の気候と農業を理解させる		3			
		中国・四国地方	日本の気候と工業立地を理解させる		2			
	10	近畿地方	日本の地形と自然災害を地図を使用し理解させる		4	期末考査		
		近畿地方	自然災害と防災について理解させる		3			
	11	中部地方	日本のエネルギー問題を理解させる		4			
		中部地方	様々なエネルギー発電の特徴を理解させる		4			
12	関東地方	日本の都市と都市問題を理解させる		1				
	関東地方	日本の都市と都市問題を理解させる		2				
3	1	関東地方	日本の都市と都市問題を理解させる		3	学年末考査		
		東北地方	日本の水産業と林業を理解させる		3			
	2	東北地方	日本の水産業と林業を理解させる		2			
		北海道地方	アイヌ文化とアイヌ語起源の地名を理解させる 北海道の開拓の歴史を理解させる		2 2			

教科名	社会	科目名	社会b	履修学年	中学 高校	2年	A~E	組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	『 中学歴史 日本と世界』(山川出版社)						
担当者	星野 真佑子		『 つながる歴史 東京都版』(浜島書店)						
学習目標	中世から近世の世界とその中の日本について、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせつつ、広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効率的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	中世：建武政権、室町幕府の興亡を理解し、国際的な交流と諸産業の発達から経済が発達し、新たな文化も生み出されたことを理解する。 近世：対外関係をふまえ、近世の日本における政治の展開や社会の変化、文化の発展について、それぞれ整理をして理解する。		中世：武士や農民といった具体的な視点から各時代の政治権力を考察する。個別の作品を事例として、文化に対する外交や社会の影響を考察する。 近世：政治・社会の仕組みが、中世とどのような点で異なるのかについて、多面的・多角的に思考・判断して表現する。また、対外関係・政治・社会・文化の展開を時系列を追って多面的・多角的に思考・判断し、変化していったことを説明する。		中世：武士や農民といった具体的な視点から各時代の政治権力を考察する。個別の作品を事例として、文化に対する外交や社会の影響を考察する。 近世：身近な地域の歴史的事象に関心をもち、農林水産業や手工業の発達、生活文化の形成などの具体例を考察し、意欲的に発表する。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査：知識問題と資料読み取り問題など 小テスト：知識問題		定期考査：資料読み取り問題や論述問題 振り返りシート		振り返りシート グループディスカッションによる意見交換および発表 授業態度、また授業以外での活動や自発的な成果物など				
学期末の 各観点比率(%)	約60%		約30%		約10%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	第3章 中世の日本	2節 武家社会の成長	モンゴルの襲来と鎌倉幕府への失望 南北朝の動乱と室町幕府の成立 東アジアと日本の国際関係 鎌倉時代の文化		11	1学期 中間考査		
	5	第4章 近世の日本	1節 一体化へ向かう世界 2節 近世社会の成立	応仁の乱と戦国大名 室町時代の文化		12	1学期 期末考査		
	6			大航海時代とヨーロッパの海外進出 信長・秀吉の全国統一					
	7			豊臣秀吉の政策					
	8								
2	9		3節 幕藩体制の確立	江戸幕府の全国支配 江戸時代初期の外交と貿易 江戸時代の対外関係		9	2学期 中間考査		
	10		4節 幕藩体制の展開	幕府政治の安定と元禄文化		12	2学期 期末考査		
	11		5節 幕藩体制の動揺	貨幣経済の発展と享保の改革 田沼時代と社会の変化 寛政の改革と対外的な危機 新しい学問と化政文化					
	12								
3	1	第5章 近代の日本と国際関係	1節 欧米諸国の近代化と日本への接近	列強諸国のアジア侵略 など		11	学年 末考査		
	2		2節 開国と幕末の動乱	開国と条約締結 貿易の開始と攘夷運動 江戸幕府の滅亡					
	3								

教科名	社会	科目名	社会α	履修学年	中学 高校	3年	A~E	組
単位数	2	使用教科書 補助教材等	『中学社会 公民ともに生きる』(教育出版)					
担当者	吉野 聡							
学習目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。							
評価方法								
評価観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢		
評価規準	現代の政治、経済、国際関係に関する事柄や、人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。			現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。		現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。		
各観点の授業内評価方法等	定期考査:知識問題と資料読み取り問題など 小テスト:知識問題			定期考査:資料読み取り問題や論述問題 振り返りシート ミニレポート		振り返りシート グループワークによる意見交換 プレゼンテーションによる発表 授業態度、また授業以外での活動や自発的な成果物など		
学期末の各観点比率(%)	約60%			約30%		約10%		
授業計画								
学期	月	章	節	項目	時間数	評価区分1	評価区分2	
1	4	第1章	1~3節	①私たちが生きる現代社会 ②現代につながる伝統と文化 ③私たちがつくるこれからの社会	11	1	学期中間	
	5	第2章	1節	①人権の考え方と歴史 ②憲法はこうして生まれた ③国民の意思による政治 など				
	6	第2章	2節	①平等権 ②自由権 ③社会権 ④新しい人権	11	1	学期期末	
	7	第3章	1節	①民主政治とは何か ②メディアリテラシー など				
	8	夏休み課題						
2	9	第3章	2節	①国会の組織と機能・国会の権限と衆議院の優越	8	2	学期中間	
			3節	②内閣の機構と機能 ③裁判所の機能と人権保障 ④地方自治制度と住民の権利 など				
	10	第4章	1~4節	①家計・企業 ②市場 ③金融・財政 など	15	2	学期期末	
	11			第5章				
12	第6章	1節	①国際社会と日本外交 ②国際連合 など	冬休み課題				
3	1	第6章	2節	①国際社会が抱える課題 ②平和主義と安全保障 ③核なき世界の実現へ など	10	3	学期期末	
	2	第7章	1節	持続可能な未来の社会へ など				
	3							

教科名	社会	科目名	社会b	履修学年	中学・高校	3年	A～E	組
単位数	2	使用教科書 補助教材等	『 中学歴史 日本と世界』(山川出版社)					
担当者	田畑 佳介 星野 真佑子		『 つながる歴史 東京都版』(浜島書店)					
学習目標	中世から近世の世界とその中の日本について、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせつつ、広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効率的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。							
評価方法								
評価観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢	
評価規準	近代：日本が政治・経済の両側面で近代化の実現を推進していることを理解する。国際情勢との関わりの中で日本の近代化や対外戦争や両大戦が行われたことを理解する。 現代：日本や世界が戦後どのような過程を経て、現在の状況にいたったのかを理解する。戦後の日本が飛躍的な経済復興を成し遂げ、国際的地位を高めた過程について理解する。東西冷戦の構造や、それぞれの陣営にどのような国が属していたのかについて整理する。			近代：日本の近代化について政治・経済の両面で、諸外国の近代化と比較したうえで、その共通点と相違点を表現する。対外戦争や両大戦にいたる過程について、他国の視点から再整理して表現する。 現代：戦後の日本の(世界の)人々の暮らしや生活スタイルがどのように変化したかについて興味を持って調べ、自分の言葉で表現する。また、戦後の日本で急速に深刻化した諸問題について考察し、自己の考えを表現する。			近代：欧米列強のアジア進出のなかで、他のアジア諸国と比較した際に、日本のみが近代化を実現できた理由について考察する。両大戦および大戦間の外交などの動きを異なる視点で再整理する。両大戦をなぜ回避できなかったのかについて、戦争の惨禍をもたらすことになったこととあわせて具体的な事例を通して考察する。 現代：現在世界で起こっている地域紛争や民族問題、もしくは地球規模で考えるべき温暖化や感染症などの諸問題について、自ら積極的に知識を獲得し、自分なりの解決策を模索しようと努力する。	
各観点の授業内 評価方法等	定期考査：知識問題と資料読み取り問題など 小テスト：知識問題			定期考査：資料読み取り問題や論述問題 振り返りシート ミニレポート			振り返りシート グループワークによる意見交換 プレゼンテーションによる発表 授業態度、また授業以外での活動や自発的な成果物など	
学期末の 各観点比率(%)	約60%			約30%			約10%	
授業計画								
学期	月	章	節	項目	時間数	評価区分1	評価区分2	
1	4	第5章 近代の日本と 国際関係	1節 欧米諸国の近代化と日本への接近	列強諸国のアジア侵略 など	10	中間考査		
	5		2節 開国と幕末の動乱	開国と条約締結 貿易の開始と攘夷運動・江戸幕府の滅亡				
			3節 立憲国家への道	明治維新から中央集権国家へ 明治初期の対外関係 自由民権運動と国会開設				
	6	第6章 二つの世界大戦と 日本	4節 日清・日露戦争とアジア	欧米の帝国主義 初期議会と条約改正 日清戦争 日露戦争とアジア 日本の大陸進出と辛亥革命	10	期末考査		
	7		1節 第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦と国際関係 ロシア革命				
8	夏休み課題							
2	9	第6章 二つの世界大戦と 日本	1節 第一次世界大戦と日本	ヴェルサイユ条約と国際関係 アジアの民族運動 大正デモクラシーと政党内閣の成立 社会運動の高まりと普通選挙法の制定	12	2学期中間		
	10		2節 国際協調の崩壊	世界恐慌とその対応 ファシズムの台頭 昭和恐慌と政党政治への反発 軍部の台頭 日中戦争と国家総動員法				
	11			3節 第二次世界大戦と日本				
	12		冬休み課題					
3	1	第7章 戦後の日本と 国際社会	1節 戦後の日本と国際社会	占領下の日本、日本国憲法と民主化 独立回復と日米安保条約 国際関係の変化と日本の外交 高度経済成長と公害問題	14	3学期期末		
	2		2節 新たな時代の日本と世界	冷戦の終結 今日の世界、今の日本、これからの日本				
	3							